

部落差別を知って

筑紫小学校六年

井野 はるか

人権とは、みんなが生まれた時から持っている幸せになれる権利のことです。

しかし、守られていないことがあります。

道徳の授業で「一枚のはがき」という学習をしました。この学習は、あるおばあちゃんが小さいころ、家がまずしくて、学校に行けず、たまに行けてもいじめられ、相手にもされず、家のために働いていたという話でした。そのため、ほとんど字が読めず、書けなかったそうです。

この学習で、私は「部落差別」と言う言葉を知りました。

部落差別とは、住んでいる場所や生まれた場所で差別することです。私は、このようなことで差別するのはおかしいし、まちがっていると思います。

では、なぜ今でも部落差別があっているのでしょうか。

もしかすると、それは人の心の中にあるのではないのでしょうか。私たちは、自分とちがうこと、多くの人とちがうことを、つい好奇の目で見てしまいがちです。しかし、それが大勢対少数になって、少数の人が悲しい思いをする場面があります。いじめの問題やはだの色による差別も同じことが言えると思います。

部落差別によって、文字を読めない書けない人々が字を学べる場所「識字学級」があることを学習しました。

おばあちゃんは、字を練習している時、えんぴつがなまりのように、重く感じられたそうです。それでも、文字を学び続けたわけは、もう不便な生活やはずかしい思いをしたくないからだと思います。

そして、周りにも、がんばっている仲間がいるからだと考えました。字が読めない書けない人を支えた場所が識字学級だと思いました。

字が書けるようになったおばあちゃんは、ある人に手紙を書きます。返事が返ってくると、おばあちゃんは、大つぶのなみだを流しました。

きつと、おばあちゃんの心の中に、他の人に字を読んでもらえたうれしさと、がんばって書いてよかったという気持ちがこみ上げてきたんだと思います。

私は、差別に負けず、文字を取りもどしたおばあちゃんをとてすごいなと思いました。

部落差別は、今でもあっているそうです。そんな部落差別をなくすために私が大切だと思ったことは、部落差別のことを正しく知り、住んでいる場所や生まれた場所で人を決めつけないことだと思います。

このことを実行して、部落差別のない平和な世の中にしていきたいです。